

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット①		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを密にとり、食材に関しては近隣の米屋、パン屋、酒屋、牛乳店等に協力をえている他、幼稚園やボランティアとの交流を行い、入居者の方々に楽しんで頂ける企画を行っている。また、「施設」ではなく「1つの家」と見て頂けるよう、地域の方々が気兼ねなく立ち寄って頂ける家づくりを目指し、地域を交えての音楽療法や体操教室、夏祭り、周年祭を開催し交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには、小・中学校や公園があり閑静な住宅街に位置している。1階に小規模多機能施設が併設され、2階と3階が2ユニットのグループホームとなっている。モダンな外観と落ち着いた色彩の内装が特徴の事業所は、平成26年10月に開所し2年目を迎える。地域との関わりを大切にし、「ウエルカム・たのしい家鶴里」を目指し、地域の盆踊りや防災訓練、運動会、清掃活動にも積極的に参加したり、幼稚園やボランティアとの交流も多くあり、地域との繋がりを深めている。また、事業所内に「地域交流室」を設けて地域に開放したり、音楽療法や体操教室、夏祭りなどに地域の方々を招き一緒に楽しむ催しも行い、地域の一員として日常的に交流し絆を強めている。趣味の絵画や書などを描いたり布で小物を作ったりして、培ってきた経験などを生活に活かす支援をしている。日当たりの良い居間で団楽をしたり、新聞を読んだりして寛いでいる。庭の大きな花壇で入居者と一緒の花や野菜を育てたり、近くの公園や喫茶店に出かけ日々の散歩を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次ステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時研修を設けており、その中で理念の伝達を行っている。	法人の決起大会で周知を図り、フォローアップ研修でも共通理解を深めるようにしている。また、事業所目標を掲げ、日々のケアの中で理念を活かした取り組みを行っている。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(運動会、盆踊り大会)への参加や、事業所での催し(音楽療法、体操教室、夏祭り、周年祭)に地域の方々に招待し、地域交流を図っている。	町内会に加入しており、入居者も個別に入室している方もあり、清掃活動などに参加している。地域交流室を設けて、老人クラブや町内会、子ども会など地域の方々に開放している。地域の盆踊りなどに参加したり、地域ボランティアや幼稚園との交流もしている。音楽療法や体操教室、夏祭りなど事業所の催しに地域の方が参加し交流を図っている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口を設置し、随時相談に乗り、問題解決の糸口となるよう対応している。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度(奇数月の第3木曜か日曜日)で行い、その中で御家族様からの要望を問う時間を設け、サービスの向上の為挙げた要望に応え対応し改善に努めている。	入居者や利用者、家族、自治会長や公民会会長、支援センター職員の参加を得て、小規模多機能と合同で2か月に1回開催している。意見や提案などが活発に話し合われ、出された意見は会議にかけて運営に反映させている。議事録を家族にフィードバックしており、意見が言いやすい環境を整えている。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に伝えておらず、実地指導を通して事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えた。	手続き代行時などに担当者や相談や情報交換がされ、協力関係を深めるようにしている。地域包括支援センターから紹介された困難事例に対応するなど、関係性を強めている。市等の開催する研修会には積極的に参加している。今後、行政と相談をしながら、「認知症カフェ」の開催も検討していく方向にある。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権・虐待防止・身体拘束研修を年に1回行い、全職員に周知を行っている。	法人の研修に参加し、更に事業所内部の研修も行ない、知識や認識を高めている。職員の発言などで気が付いた時には、職員と面談をして拘束感のないケアに努めるように注意喚起をしている。また、ベットの柵など安全上必要な場合については、状況を見ながら毎月同意を得て行っている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権・虐待防止・身体拘束研修を年に1回行い、全職員に周知を行っている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中で学ぶ機会はあるが、現在の入居者は利用されていない。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、法改正時には重要事項説明書を用いて料金の説明を口頭にて行い同意を得ている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見を議事録に残し、外部の方が閲覧できる状況にしている。	入居者からは日常の会話やケアの中から、また、家族からは訪問や行事の時に把握している。運営推進会議では、活発な意見が出されているので、カンファレンス等で検討して対応を決めている。決定内容についてはホーム便りで家族に周知を図っている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やケアカンファレンスの機会を設け、業務やケアの改善に努めている。	日常の業務やカンファレンスなどで、自由に発言や意見交換ができる機会があり、管理者はあげられた意見を基に運営に反映させるようにしている。「誰伸び人事制度」の個人面談時に、職員の意見や要望を把握し反映するようにしている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を行うキャリア支援制度を設けており、給与水準、やりがいの向上の為多くの職員の方々に利用していただいている、		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では研修計画に基づいて実施している。外部研修に関しては研修案内ファイルを作成し、職員に研修の把握を行い、現在1名の職員が意欲をもって継続して参加している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会への参加や、認知症カフェへ赴き、活動内容等の意見交換を行っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族、前利用サービス事業者からアセスメントを行い、入居後のケアプランへの繁栄を行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等からアセスメントを行い、入居後のケア内容に役立て関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて訪問内科、歯科、眼科、マッサージ、美容の利用対応を行っている。また褥瘡の出来やすい入居者に対してエアマットの導入を行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に料理や食事、洗濯畳みを行い協力しながらの関係性を保っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切にするため、イベントに関しては家族が共に参加いただける内容を企画し、案内を行い楽しんでいただいている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に当ホームに来訪していただき、また気兼ねなく来ていただける環境づくりを行っている。	これまでの生活の情報を入居時に収集してケアに活かしている。知人や友人の訪問により馴染みの関係が途切れないように支援をしている。趣味の絵や習字を書いたり、ミシンで袋物を作ったりして培ってきた経験を活かすようにしている。初詣や喫茶店などは、新しい馴染みの場となっている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきりの入居者にも孤立させないよう昼食時はフロアに出る時間をつくり、入居者同士が関わりを持てる環境を提供している。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を受け入れ、ADL低下に配慮しながら生活サイクルを合わせたりカラオケ等の趣味(火、金実施)を取り入れている。	傾聴の姿勢を基本として、言葉や表情、態度、力の入れ具合などから推測して対応している。意志や感情の表出が少なく、気持ちの把握が困難な入居者に対しては、立場を自分に置き換えて考えるよう職員に指導している。把握した意向は個別連絡帳で共有し、ケアに繋げるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでの情報を元にしてサービス利用の経過把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りやケアカンファレンスを通じて現状の把握に努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やケアカンファレンスにて話し合い現状を把握したうえでケアプラン作成を行っている。	家族の要望や意見は、施設来訪時や電話などで聞き取りをしている。担当制ではないので、職員全員でモニタリングや話し合いをし、医師の意見を基にして、基本的には6か月に1回計画の見直している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌にて情報共有を行い、気になる点においてはケアカンファレンス、会議内にて話し合い改善を行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて訪問歯科、マッサージ、眼科、美容等のサービスの提案を行っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園やボランティア等インフォーマルな資源を活用して楽しく生活していただけるように支援している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診医での対応となるが、入居者・家族の希望がある際は外部の医療機関に受診していただいている。	入居時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んでいる。往診医による内科の受診は月2回の定期診療と個別に往診が受けられる。協力医による歯科や眼科も受診し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携時に看護職に気になる点等を報告・連絡・相談を行い助言をいただいている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう受け入れがいつでも行える状態で備えていることや、医療機関と電話や直接伺って情報共有、相談に努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の看取り指針は入居契約時に説明は行っているが、現状該当者なし。	重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように日頃から研鑽を重ねている	重度化や終末期に向けて、マニュアルや手順書の整備を行ったり、職員の技術やメンタルケアも含めた研修体制を築いていくことを望みたい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のマニュアルを作成し職員に周知を行っている。応急手当や初期対応訓練は開設時以降行っていない。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて実際に火災通報訓練や消火訓練を行い、緊急時対応できる体制を築いている。また運営推進会議にて公民会長を中心にして協力を呼び掛けている。	消防署立会いの下に、地域との共同で避難訓練を行っている。水害についても検討済みであり、次回の訓練は公民会長も参加予定である。3日分程度の食料や水、簡易トイレや手回しラジオ等も用意されている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次ステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カーテンやバスタオルを使用して露出を少なくする対応やノックを行う等当たり前のことではあるが、人格の尊重に努めている。	入居者の人格や誇りを損なわないようにし、一人ひとりの気持ちを尊重してケアをするように心がけている「自分がされて嫌なこと」に気をつけ、その人のライフスタイルに応じた言葉がけや対応に努めている。ケアの中で、職員の対応や言葉がけに差異が感じられる。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設側の意向に流されることなく、入居者に自己決定が行えるよう開かれた質問を利用して働きかけを行っている。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりんぼペースに合わせ希望に沿って支援している。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側の都合で洋服等を決めることなく入居者の意思に合わせている。意思疎通が難しい入居者にも選択していただく機会をもつなどの支援を行っている。また馴染の化粧品等を継続して使用できるよう対応してい	
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の入居者にはなるが、調理を職員と共に行ったり片づけを行っている。	業者委託のため、基本メニューと食材が届けられ、事業所で調理している。入居者の希望を聞いたり、季節ごとの行事食や手作りおやつなどを取り入れた食事を用意できる。五平餅やお節作りは、昔を思い起こさせ楽しみの一つとなっている。職員と一緒に刻みや盛り付け、片付けなどを行っている。また、外食や仕出しを取る機会もあり、食事を楽しむ支援をしている。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本食材会社からの食材・メニューをもとにして栄養バランスを維持している。また入居者に応じて刻み、ミキサー食での対応を行い誤嚥性肺炎予防に努めている。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔衛生、誤嚥性肺炎予防に努める他、必要に応じてスポンジブラシや歯磨きシートを使用し対応している。	

己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンを把握したうえで、定期的に声掛け・トイレ誘導を行っている。以前失禁のみだった入居者もトイレでの排泄ができるように改善がみられた。	よりさりげない声掛けや誘導を行い、排泄のタイミングを見ながらトイレでの座位排泄に心がけ、失禁が減少した。夜間は2時間に1回巡回を行い、個々のパターンにより声掛けやパット交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取していただいたり、体操を通じて便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	不穏時には時間をずらすなどしてタイミングを見ながら入浴施行している。また入浴剤を使用して楽しみの時間も提供している。	週2～3回程度の入浴を目指している。基本的に午前、午後が入浴時間であるが、希望時間にも入浴は可能である。毎回お湯は入れ替えており、同性介助希望者にも対応している。入浴を拒否される方にも日々の声掛けにより、入浴していただいている。季節を感じるゆず湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々バイタルサインを計測し、状態を観察し必要に応じて居室での休暇をとって頂く時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報を綴じて各職員が把握できるように対応しており、誤薬やのみ忘れが無いように服薬時にダブルチェックを行い事故予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや散歩等にて楽しみ事や気分転換を図っている。また現在個別での喫茶店への外出を設ける企画を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者から希望を募って、季節に合わせた外出(桜の花見)や外食(鰻や蟹料理)レクを企画して支援を行っている。	日々の外出支援は、喫茶店や近隣公園に行ったり、おやつやケーキなどを買いに出かけたりしている。事業所敷地内の花壇で、栽培や水まき、収穫などを園芸ボランティアと共に行い屋外での活動を支援している。また、季節の花見や外食などに出かけている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本事業所がお金を金庫でお預かりして保管している。買い物や外出時お金を使いたいとの要望があれば、家族に連絡したうえで使用している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては相手の状況により行っている。年賀はがきを制作して送付を行ったり、希望があれば手紙のやり取りを受け付けている。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間光に敏感であり、不穏になり易い為安全上必要のないトイレの光(センサー)を隠すなどして刺激の軽減を行っている。	職員と入居者が共同で季節感ある作品を作り、共有空間に程良く飾っている。職員と一緒にフロアの清掃をし清潔を維持している。温かい日差しが心地良いソファでテレビを見たり、食卓を囲んで会話を楽しんだりして過ごしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外にソファを設置して独りの時間や気の合った入居者同士で過ごせる空間づくりを行っている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長線上であることを大切にして、自宅で使い慣れたものや好みのものを持ち込んで頂いている。	自身で掃除をする入居者もあり、気に入ったものを持ち込んで、自分の空間を作っている。衣替えは家族の協力のもとに行い、整容をととのえ、清潔で心地よい暮らしを実現している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護は行わず、残存機能を利用しながらできることに目を向け、入居者の可能性を引き出す支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット②		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2391200165-00&PrefCd=23&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント
所在地	東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階
訪問調査日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを密にとり、食材に関しては近隣の米屋、パン屋、酒屋、牛乳店等に協力をえている他、ボランティアとの交流を行い、入居者の方々に楽しんで頂ける企画を行っている。また、「施設」ではなく「家」と見て頂けるよう、地域の方々が気兼ねなく立ち寄って頂ける家づくりを目指し、地域を交えての交流や体操教室、夏祭り、周年祭を開催し交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには、小・中学校や公園があり閑静な住宅街に位置している。1階に小規模多機能施設が併設され、2階と3階が2ユニットのグループホームとなっている。モダンな外観と落ち着いた色彩の内装が特徴の事業所は、平成26年10月に開所し2年目を迎える。地域との関わりを大切にし、「ウエルカム・たのしい家鶴里」を目指し、地域の盆踊りや防災訓練、運動会、清掃活動にも積極的に参加したり、幼稚園やボランティアとの交流も多くあり、地域との繋がりを深めている。また、事業所内に「地域交流室」を設けて地域に開放したり、音楽療法や体操教室、夏祭りなどに地域の方々を招き一緒に楽しむ催しも行い、地域の一員として日常的に交流し絆を強めている。また、趣味の絵画や書などを描いたり布で小物を作ったりして、培ってきた経験などを生活に活かす支援をしている。日当たりの良い居間で団欒をしたり、新聞を読んだりして寛いでいる。庭の大きな花壇で入居者と一緒の花や野菜を育てたり、近くの公園や喫茶店に出かけ日々の散歩を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時研修を設けており、その中で理念の伝達を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(運動会、盆踊り大会)への参加や、事業所での催し(音楽療法、体操教室、夏祭り、周年祭)に地域の方々を招待し、地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口を設置し、随時相談に乗り、問題解決の糸口となるよう対応している。その他、事業所での研修で培った認知症ケアの技法(ユマニチュード)を来訪者の方々に伝達を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度(奇数月の第3木曜か日曜日)で行い、その中で御家族様からの要望を問う時間を設け、サービスの向上の為に挙げた要望に応え対応し改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には伝えておらず、実地指導を通して事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権・虐待防止・身体拘束研修を年に1回行い、全職員に周知を行っている。また、身体拘束(四点柵)使用の入居者が1名いるが、会議での話し合いや、同意等手順を踏み慎重な対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権・虐待防止・身体拘束研修を年に1回行い、全職員に周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中で学ぶ機会はあるが、現在の入居者は利用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、法改正時には重要事項説明書を用いて料金の説明を口頭にて行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見を議事録に残し、外部の方が閲覧できる状況にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やケアカンファレンスの機会を設け、業務やケアの改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を行うキャリア支援制度を設けており、給与水準、やりがいの向上の為多くの職員の方々に利用していただいている、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では研修計画に基づいて実施している。外部研修に関しては研修案内ファイルを作成し、職員に研修の把握を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会への参加や、認知症カフェへ赴き、活動内容等の意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族、前利用サービス事業者からアセスメントを行い、入居後のケアプランへの繁栄を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等からアセスメントを行い、入居後のケア内容に役立て関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて訪問内科、歯科、眼科、マッサージ、美容の利用対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に料理や食事、洗濯畳みを行ったり、ミシンでの洋裁を見守りの上で入居者をお願いするなどし、もちつ持たれつとの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切にするため、イベントに関しては家族が共に参加いただける内容を企画し、案内を行い楽しんでいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に当ホームに来訪していただき、また気兼ねなく来ていただける環境づくりを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はフロアにてちぎり絵やぬり絵等のレクを通じて出来る活動に視点をあてて個々の作品のみならず1つの制作物に入居者同士が協力できる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話にての連絡をとり経過のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々レクリエーションにて意向に沿った支援を行ったり、まだ頻度としては少ないが、外出支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでの情報を元にしてサービス利用の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りやケアカンファレンスを通じて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やケアカンファレンスにて話し合い現状を把握したうえでケアプラン作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌にて情報共有を行い、気になる点においてはケアカンファレンス、会議内にて話し合い改善を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて訪問歯科、マッサージ、眼科、美容等のサービスの提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園やボランティア等インフォーマルな資源を活用して楽しく生活していただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診医での対応となるが、入居者・家族の希望がある際は外部の医療機関に受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携時に看護職に気になる点等を報告・連絡・相談を行い助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう受け入れがいつでも行える状態で備えていることや、医療機関と電話や直接伺って情報共有、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の看取り指針は入居契約時に説明を行っているほか、終末期に入る入居者家族と医師で話し合いを行なった。(結果看取りは病院となる)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のマニュアルを作成し職員に周知を行っている。応急手当や初期対応訓練は開設時以降行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて実際に火災通報訓練や消火訓練を行い、緊急時対応できる体制を築いている。また運営推進会議にて公民会長を中心にして協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カーテンやバスタオル等にてプライバシーの配慮を行い、個人情報、守秘義務等研修を通じながら職員に徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設側の意向に流されることなく、入居者に自己決定が行えるよう開かれた質問を利用して働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりんぼペースに合わせ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側の都合で洋服等を定めることなく入居者の意思に合わせている。意思疎通が難しい入居者にも選択していただく機会をもつなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人のADLに合わせて調理や後片付けを分担して行い、役割を持つことでやりがいづくりを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本食材会社からの食材・メニューをもとにして栄養バランスを維持している。また入居者に応じて刻み対応を行い、食事の際やおやつ時間等時間を決めて水分が確保できるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔衛生、誤嚥性肺炎予防に努める他、必要に応じてスポンジブラシを使用し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンを把握したうえで、定期的に声掛け・トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取していただいたり、体操を通じて便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	不穏時には時間をずらすなどしてタイミングを見ながら入浴施行している。また入浴剤を使用して楽しみの時間も提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々バイタルサインを計測し、状態を観察し必要に応じて居室での休暇をとって頂く時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報を綴じて各職員が把握できるように対応しており、誤薬やのみ忘れが無いように服薬時にダブルチェックを行ったり、錠剤内服難しい入居者には粉碎対応を薬局にお願いして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちぎり絵、ぬり絵や散歩等にて楽しみ事や気分転換を図っている。ある入居者に関してはミシンでの洋裁をお願いしたりしている。また現在個別での喫茶店への外出を設ける企画を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者から希望を募って、季節に合わせた外食(鰻や蟹料理)レクを企画して支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本事業所がお金を金庫でお預かりして保管している。買い物や外出時お金を使いたいとの要望あれば、家族に連絡したうえで使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては相手の状況により行っている。年賀はがきを制作して送付を行ったり、希望があれば手紙のやり取りを受け付けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間居室に入る光に敏感であり、不穏になり易い為安全上問題のない照明に関しては外す対応を行い、落ち着いて頂けるように対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外にソファを設置して独りの時間や気の合った入居者同士で過ごせる空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長線上であることを大切にして、自宅で使い慣れたものや好みのものを持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護は行わず、残存機能を利用しながらできることに目を向け、入居者の可能性を引き出す支援を行っている。		